

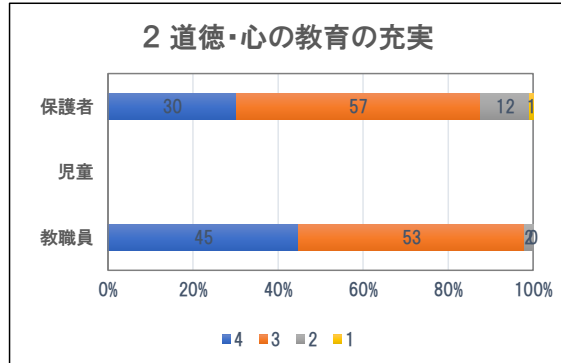
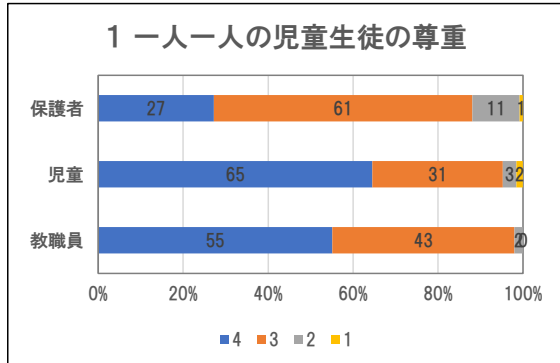
令和3年度 熊本市立託麻南小学校自己評価

4 そう思う 3 どちらかといえばそう思う 2 どちらかといえばそう思わない 1 そう思わない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。

学校は、豊かな人間性を育む教育の充実にも努めていると思いませんか。

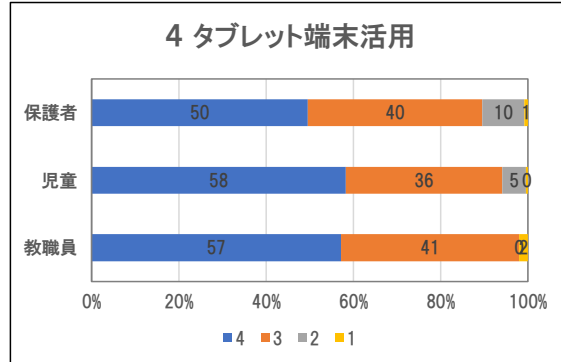
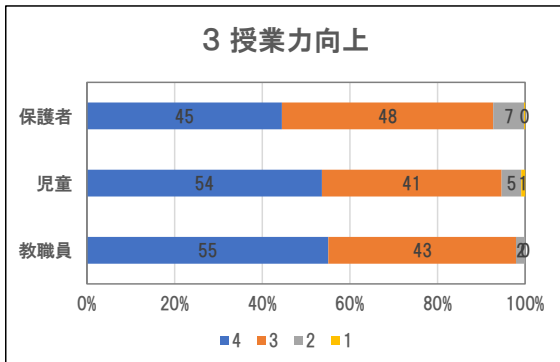


1 一人一人の児童生徒の尊重は、三者ともに「そう思う・どちらかといえばそう思う」を合わせると、約9割を超えている。割合的には少ないものの、今後はさらに、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」児童に目を向け、全ての児童が大切にされているとの思いを持つことができるよう努める。2 道徳・心の教育の充実については、教職員の「そう思う・どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、昨年度に比べて4ポイント向上した。研究授業や研修の機会により、授業の充実にも努めたことや、本校の教育目標である礼儀や思いやりについて、学校生活全般において指導を重ねてきた成果であると考えられる。今後も、道徳の授業参観の実施や通信を通じた家庭への発信を行い、保護者への啓発を工夫していく。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いませんか。

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いませんか。

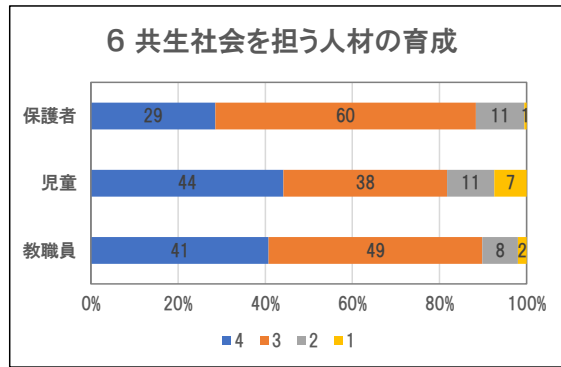
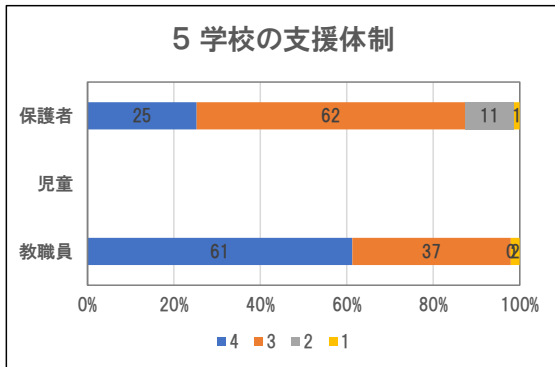


3 授業力向上は、95%の児童が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答しており、これは昨年度より4ポイント向上している。少ないとはいえ、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と回答している児童がおり、全ての児童にとって充実した授業となるよう努めていく。4 タブレット端末の活用については、「そう思う」と回答した保護者の割合が、昨年度と比較し、5ポイント向上した。これは、オンライン学習等で、児童が学習する姿を見られる機会が増えたためと思われる。ただ、三者とも、「あまりそう思わない・そう思わない」と回答した割合はほぼ昨年度と変わらず一定の割合見られた。実際に、「学習以外の目的の使用」を危惧する声も聞かれる。今後も、使用にあたっての指導もさらに充実させていく必要がある。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

学校は、支援を必要としている子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

特別支援学級と通常学級の「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。

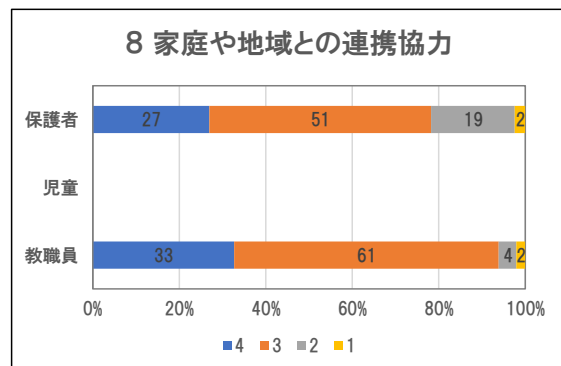
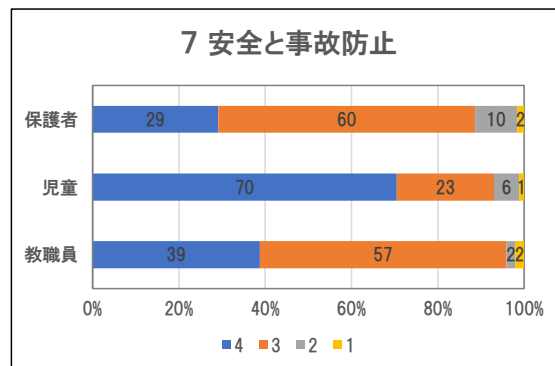


5 学校の支援体制は、「そう思う・どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、昨年度とほぼ変化がないものの、保護者の「そう思う」の割合は7ポイント減少した。本年度は、授業参観や学級懇談等の機会が少なかったことも起因していると思われる。今後はさらに、他の方法も模索しつつ共通理解を図り、充実した支援ができるよう努めていかなばならない。6 共生社会を担う人材の育成については、三者とも、「そう思う・どちらかといえばそう思う」を合わせると、8割を超えている。しかし、特に児童の解答には、「そう思う」「そう思わない」共に三者の中で最も高い割合を示している。このことから、特別支援学級との交流学級と、そうでない学級の児童の意識の差が大きいと思われる。今後は、交流学級以外の児童との理解の場も増やし、相互理解が深まるよう努める。

④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

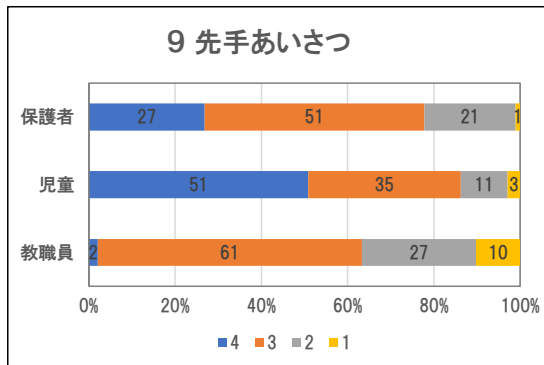
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



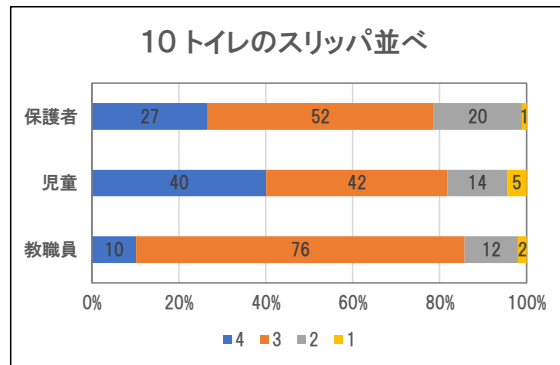
7 安全と事故防止は、三者とも、「そう思う・どちらかといえばそう思う」を合わせると、約9割を超えている。しかし、保護者及び教職員の「そう思う」の回答の割合は児童と比較しおよそ半数で、意識にかなりの開きがある。日常の様子からも、さらに児童の安全に対する意識を高め、事故防止に努める必要がある。8 家庭や地域との連携協力については、「そう思う・どちらかといえばそう思う」を合わせたポイントは、昨年度に引き続き、微減している。学級懇談や家庭訪問等保護者と対面して直接話す機会がない分、担任は電話や連絡帳をとおして連絡をとるよう努めていた。今後はさらに、学級通信やタブレット等も用いながら発信し、コミュニケーションを図っていく必要がある。また、コロナ禍における地域との連携の在り方についても工夫していきたい。

⑤学校独自項目

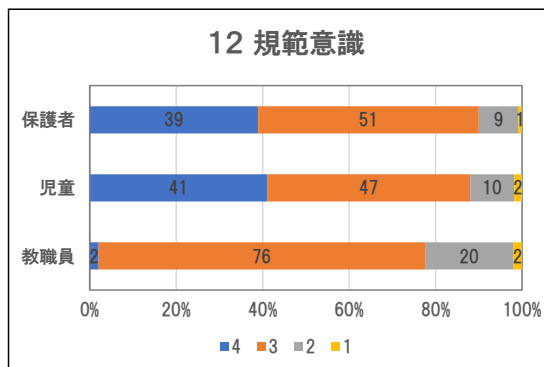
子どもは、自分から進んで明るいあいさつができていますか。(礼儀)



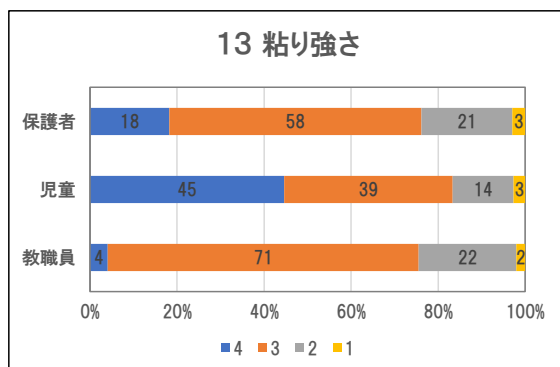
子どもは、自分から進んでトイレのスリッパを並べていますか。(次の人への思いやり)



子どもは、ルールや決まりを守って生活していると思いますか。



子どもは、できなくてもやるという意識をもって粘り強く取り組んでいると思いますか。



10 先手あいさつは、保護者、教職員ともに「そう思う・どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が向上し、特に教職員は昨年度の48%から15ポイント大幅に向上した。逆に、児童は昨年度の100%から88%へと減少している。これは、児童の目指すところが高くなったものと思われる。11 トイレのスリッパ並べについては、三者とも約8割を超えており、多くの児童が意識して取り組んでいると思われる。今後も根気よく全ての児童がその意識をもって次の人への思いやりを表すことができるよう働きかけていきたい。12 規範意識については、教師、児童とも1~2割程度は「どちらかといえばそう思わない・そう思わない」と回答しており、引き続き、規範意識が高まるよう努めていく必要がある。13 粘り強さについては、まだ高めなくていい必要があると考えられる項目である。